

《歌をうたふことは母が得意にしたもの一つだ。この病院へ来てからも、他の言の記事は一切失つても歌だけは長い歌詞の最後までうたつてゐたといふことだ。借太郎は子供のころから母の歌で悩まされた歌詞の一つをおぼえてゐる。》をさなくて罪をしらす、むづかりては手にゆられし、むかし忘れし。春は軒の雨、秋は庭の露、母は泪かまくまなく折るとしらすや」といふのがそれだ。いはばそれは彼女のテーマ・ソングだ。どうかすると一日のうちに何遍となく繰り返かへしてその歌をうたつた。たぶんそれは半ば習慣的、無意識のものだつたにちがひない。だが、聞く方の借太郎にとつて、それは無意識なだけに、母親の情緒の押しつけがましさが一層露骨に感じられた。その押しつけがましさをおかげでしばしば彼は、母親にとつていつたい自分が何であるのか、母とは何であり息子とは何であるのか、問ひかへしたい衝動を子供心におぼえたものだ。……（安岡章太郎「海辺の光景」）

私はこういう「押しつけがましい」情緒が、どれほどの範圍の母と息子とを拘束しているものなのかよく知らない。しかし一般に日本の母親と息子の關係には、これによく似た激しい情緒が隠されているように思われてならない。それはほとんど肉感的なほど密接な關係で、たとえばエリック・エリクソンが「幼年期と社会」で語っている米國の母子關係の對極にあるものである。エリクソンは米國の青年の大部分が母親に拒否されたといふ心の傷を負っているといふ（注1）。これはいうまでもなく、いつも母の「テーマ・ソング」を聴かされ、その甘酸っぱい歌声が肌に残りついて来るのを感じていた「海辺の光景」の主人公には縁のない傷痕である。

拒否も保護過剰も成熟の妨げになることに變りはない。現にエリクソンは、母親の拒否がしばしば人格の核の弱い、他人とつながることのできない人間をつくるといつてゐる。保護過剰で育てられた人間がいつまでも大人になれないことは常識で考えてもわかる。しかし私はここで育児法の講釈をしよふといふのではない。ただ日本の母と子の密着ぶりと米國の母子の疎隔ぶりのあいだには、ある本質的な文化の相違がうかがわれるはずだといふのである。この特質が文学に影響をあたえないはずはない。そして今日、日本の作家が「成熟」を辿られ、しかも「成熟」の手がかりをつかめずにいるのが現状だとすれば、その原因はちとらくこゝまで溯らなければならぬはずである。

エリクソンによれば、米國の母親が息子を拒むのは、やがて息子が遠いフロンティアでも頼れない生活を送らなければならないことを知っているからだといふ。そういう息

子のもっとも純粋なイメージは、やがて目的地に着いたら屠殺される運命の仔牛の群を率いて大草原を行くカウボーイの孤独な姿に反映している。

《ゆっくり行け、母なし仔牛よ  
せわしく歩きまわるとよ  
うろうろするのはやめてくれ  
草なら足元にどつきりある  
だからゆっくりやつてくれ  
それにお前の旅路は  
永遠に続くわけではないぞ  
ゆっくり行け、母なし仔牛よ  
ゆっくり行け》（注2）

このカウボーイの子守唄と、たとえば安岡章太郎氏の小説の母親が歌う、  
《をさなくて罪をしらす  
むづかりては手にゆられし  
むかし忘れし  
春は軒の雨、秋は庭の露  
母は泪かまくまなく  
折るとしらすや》

という、「押しつけがましい」歌との異質性は一目瞭然である（注3）。

「成熟」する間もなく母親に拒まれ、心に傷を負って放浪の旅に出たカウボーイは、誰にも頼らずに自分の死を見つめて「ゆっくり」大草原の彼方に消えて行く。彼は孤独であり、母親と絶たれているように他人からも絶たれている。しかし彼は自分の率いる「母なし仔牛」の群に対しては一個の「母」であり、その故に子守唄をうたつてきかせてやったりするのである。一方「海辺の光景」の母親のうたう歌にこめられているのは、成長して自分を離れて行く息子に対する恨み——あるいは「成熟」そのものに対する呪詛である。

母親は息子が自分とはちがった存在になつて行くことに耐えられず、彼が「をさなくて罪をしらす」なかつた頃、つまり母親の延長にすぎなかつた頃の幸福をつかかむ。この息子が「他人」になることに替へる感情は、あるいは母と子のあいだを超えて、一般にわれわれの現実意識の型を支配しているかも知れない。つまりわれわれは、成長した息子のように見馴れない現実が出現すると、まずその存在を否定しようとし、次いで出現した新しい現実を恨む。そして新事態を認めるよりは「むかし忘れしか……泪かまくまなく折るとしらすや」と愚痴っぽくうたうことを好むのである。

Go slow, little dogies, stop milling around  
For I'm tired of your roving all over the ground  
There's grass where you're standin'  
So feed kind o' slow  
And you don't have forever to be on the go.  
Move slow, little dogies, move slow.